

西発哺温泉ホテル

Nishi Hoppo Onsen Hotel
(長野県山ノ内町)



外観

志賀高原へやって来た。今日も一日スキーである。

志賀高原の温泉と言えば、熊の湯と発哺温泉が有名だ。熊の湯についてはすでに当銭湯愛好会で紹介している。今回は、発哺温泉の紹介だ。

発哺温泉は国道 292 号線から少し外れた場所にある。案内に従って進むと温泉街に入るが、温泉街入口付近にある大きなホテル・薬師の湯は休館中である。廃業しているようにも見える。さらに奥へ進むと、道はどんどん狭くなり、車がやっと 1 台通れる幅である。しばらく進むと分岐にぶち当たるが、どちらへ行ったらよいのかわからない。とりあえず通りやすそうな左へ進む。道は上り下りが激しくなり、「4WD でスタッドレスタイヤでない」と通行不可能」との脅し文句が書かれた看板まであるではないか。やっとの思いで突き当りに到着。ここに数軒のホテルがあるが、お目当ての西発哺温泉ホテルはない。ホテル従業員に聞くと、どうやら先ほどの分岐を右へ進むべきだったようである。

気を取り直して来た道に戻る。右の道は上り下りは激しくないが、何となく寂しげな道である。本当にこの先にホテルがあるのか。かなり不安である。数百メートル進むと、路上駐車の見えてきた。どうやら、ホテルに到着したようである。このホテル、駐車場のキャパシティーがあまりないようだ。

このようなアプローチであるため、冬に発哺温泉を訪れるのは要注意である。よほど温泉が好きな人で、十分な走破能力を持った車を所有していない場合には、全くお勧めできない。

駐車場には温泉特融の硫黄のにおいが立ち込めている。いよいよ温泉にありつける。ホ

テル玄関から入り、フロント（2階）で日帰り入浴であることを伝えると、腰の悪そうなおばあさんが歓待してくれた。タオルをもらい、1階の浴室へ。暖簾には「火地獄」と書かれている。私にしてみれば、「峡路地獄」であった。

温泉はシンプルそのもの。内湯の浴槽と洗い場（9か所）、シャワーブース（1か所）があるだけである。その洗い場のカラんとホースがすごい。温泉の成分で真黒に変質しているのである。洗い場にはリンスインシャンプー、ボディークリーム、固形石鹸がある。そして、浴槽の湯は、強烈に熱い。確かにこれでは火地獄である。水で薄めながらろうじて入ることができた。

窓の外は志賀高原の山、森、グレンデが見える。このホテルはかなり高い位置にあるので、遠くに見えるグレンデ（ジャイアントだろうか）を見下ろすような感じだ。ホテルの脇はすぐにグレンデ（西館山スキー場の中腹と思われる）であるため、スキーヤーにとっては便利なホテルかもしれない。

フロントに戻ってくると、おばあさんはいなくなり、おじいさんがいた。「湯加減はいかがでしたか」と聞かれたので、「熱すぎました」と答えると、「それはすみませんでした」とお答えになった。火地獄を標榜する割には控え目なホテルである。「いえいえ、薄めながら入りましたから大丈夫でしたよ」と言ってホテルを後にした。

ちなみに、西発峠温泉ホテルの湯は単純温泉（弱酸性低張性高温泉）で、神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後の回復、疲労回復、健康増進に効くという。露天風呂、水風呂はない。

火地獄でかつ峡路地獄。しかし、その先には極楽のスキーと眺望風呂。苦労して到達した者のみが味わえる、隠れ家かもしれない。

- **名称**：西発峠温泉ホテル
- **所在地**：長野県下高井郡山ノ内町志賀高原発峠温泉
- **電話**：0269-34-2634
- **営業時間**：12：00～20：00（要確認）
- **定休日**：不定休
- **入浴料**：宿泊者は無料、日帰り入浴 700 円
- **サウナ**：なし
- **サウナ内のテレビ**：なし
- **取材日**：2014年2月22日（土）
- **取材**：銭湯愛好会・東京支部